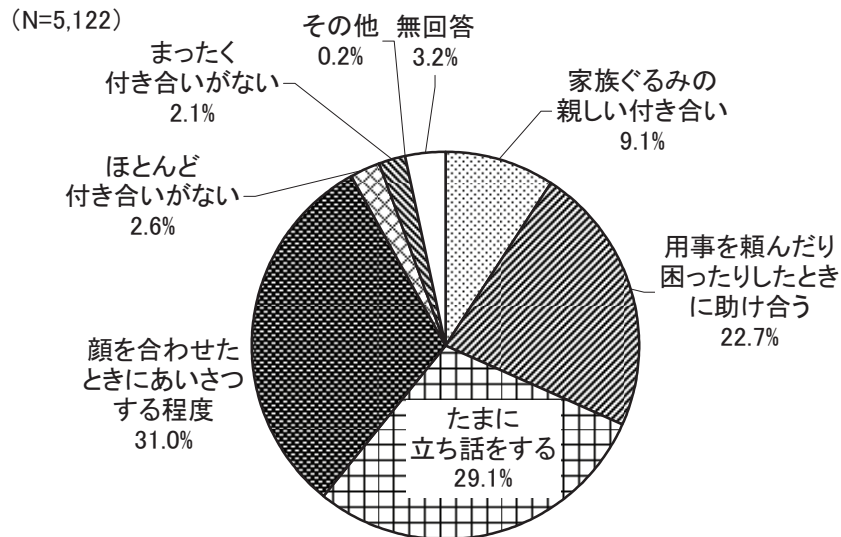


## 6 コミュニティづくりやまちづくり、市政への参加について

### (1) 隣近所との付き合いの程度

問12 隣近所の人とはどの程度のお付き合いですか。(○は1つ)



**Point!**

「あいさつ程度」が最も高く、いずれの世帯構成においても若い年代は付き合いが浅い。

隣近所との付き合いの程度は、「顔を合わせたときにあいさつする程度」が31.0%、「たまに立ち話をする」が29.1%と各々3割前後を占めている。一方、「ほとんど付き合いがない」は2.6%、「まったく付き合いがない」は2.1%となっている。

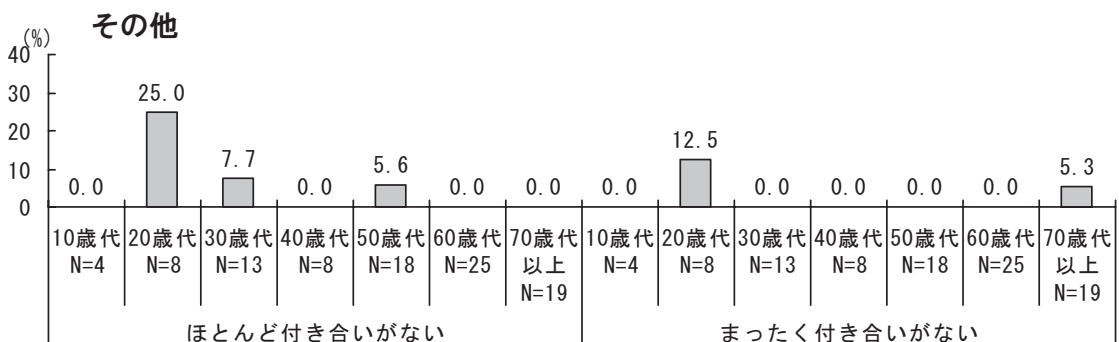
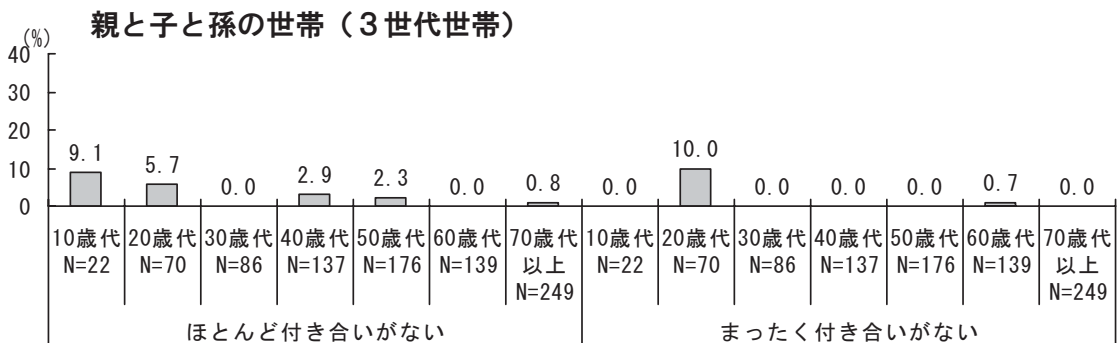
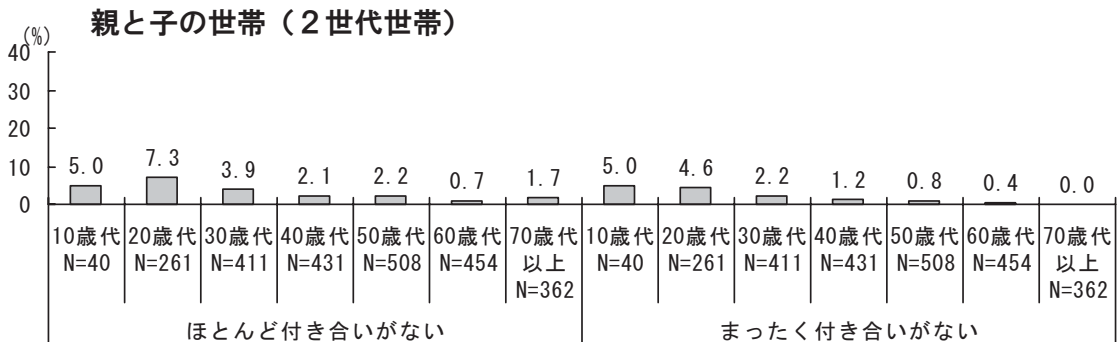
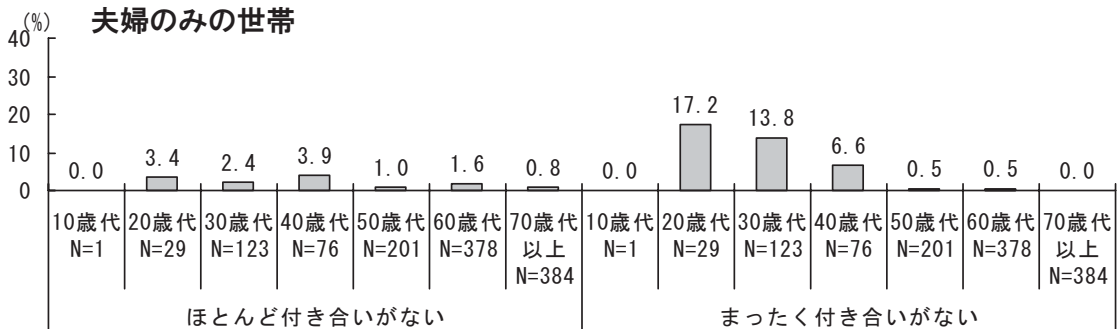
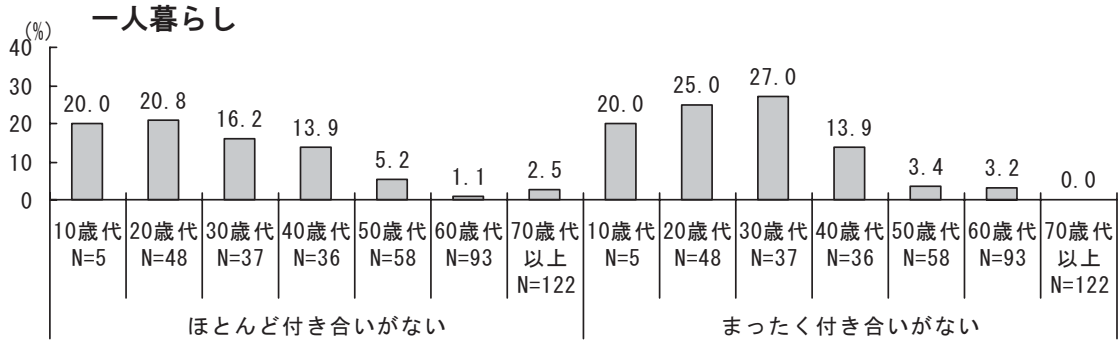
世帯構成・年代別に「ほとんど付き合いがない」と「まったく付き合いがない」をみると、いずれの世帯構成においても10歳代から30歳代の若い世代では割合が高くなっている。特に一人暮らしではその傾向が顕著で、20歳代、30歳代では「ほとんど付き合いがない」と「まったく付き合いがない」を合わせて4割以上を占めており、40歳代においても3割弱を占めている。夫婦のみの世帯では20歳代と30歳代の「まったく付き合いがない」(20歳代:17.2%、30歳代:13.8%)が1~2割、親と子と孫の世帯(3世代世帯)では10歳代の「ほとんど付き合いがない」(9.1%)と20歳代の「まったく付き合いがない」(10.0%)がそれぞれ1割前後と、他の年代に比べて高くなっている。

●その他内訳●

- 地域の行事を通し、出来るだけ関わりを持つようになっている。
- 自己中心的な人達ばかりで、付き合いのが嫌であるが、最低限の付き合いを仕方なくしている。
- 最近、転居した為。
- 相手に負担、迷惑をかけない様、気を配りながら親しく付き合いようとしています。

…など

【世帯構成・年代別 『付き合いがない』】

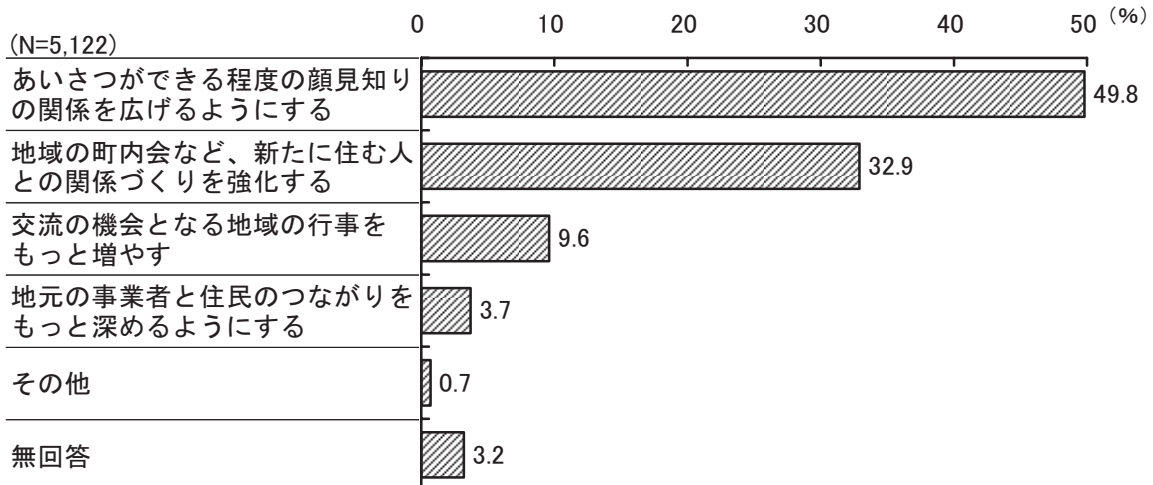


## (2) 地域における助け合い、支え合いの活動を活発にするために重要なこと

### ①地域でできること

問 13 地域における助け合い、支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。地域でできること、市でやることそれぞれについてお答えください。

(○は1つ)



**Point!**

現在隣近所との付き合いがない人でも、「あいさつ程度の顔見知りの関係」を重視している。

助け合い、支え合いの活動を活発にするために、地域でできることは、「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げるようにする」が 49.8%と5割弱を占めている。また、「地域の町内会など、新たに住民との関係づくりを強化する」も 32.9%と3割を占めている。

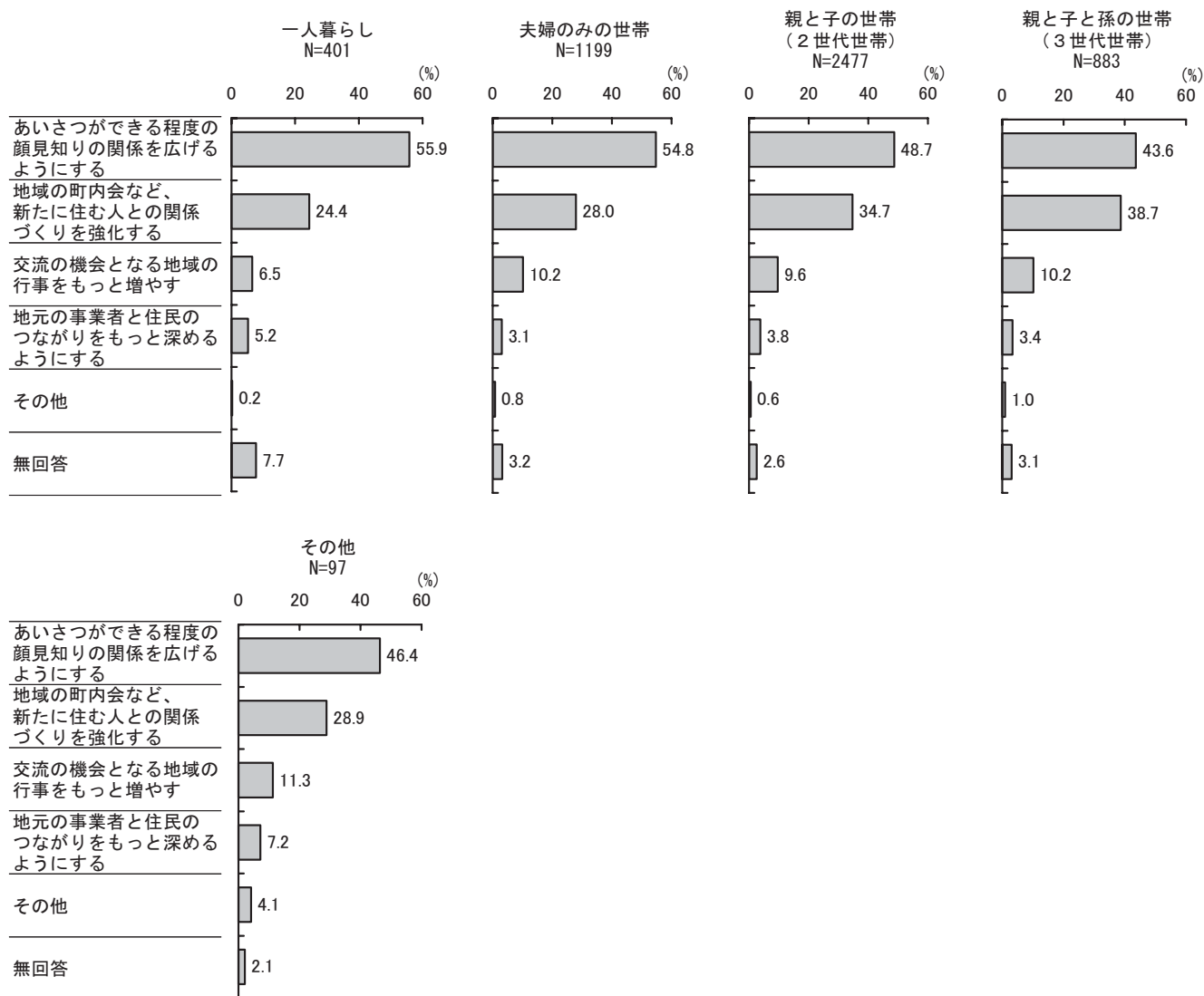
●その他内訳●

- 気軽に参加できる行事を作る。現在の行事は、主催者、参加者両者に負担がかかる。
- 地域の行事内容を見直し、充実させること。
- 地域の公民館活動を通して、知り合いの場も、非常に大切な面もある事が、最近、気が付いてきました。
- 町内で何がよいこと、悪いことか等話し合ってみる。同じ地域に住んでいる人が仲良く助け合っているか、とても大切だと思います。
- 年寄りの多い近所が、今後益々増えるので助け合いが必要。
- 祭り、運動会に参加する。
- 見て見ぬふりをせず、声を掛け合うこと。
- みんな忙しいと思うので、無理のない程度の活動。職場の理解が必要。

…など

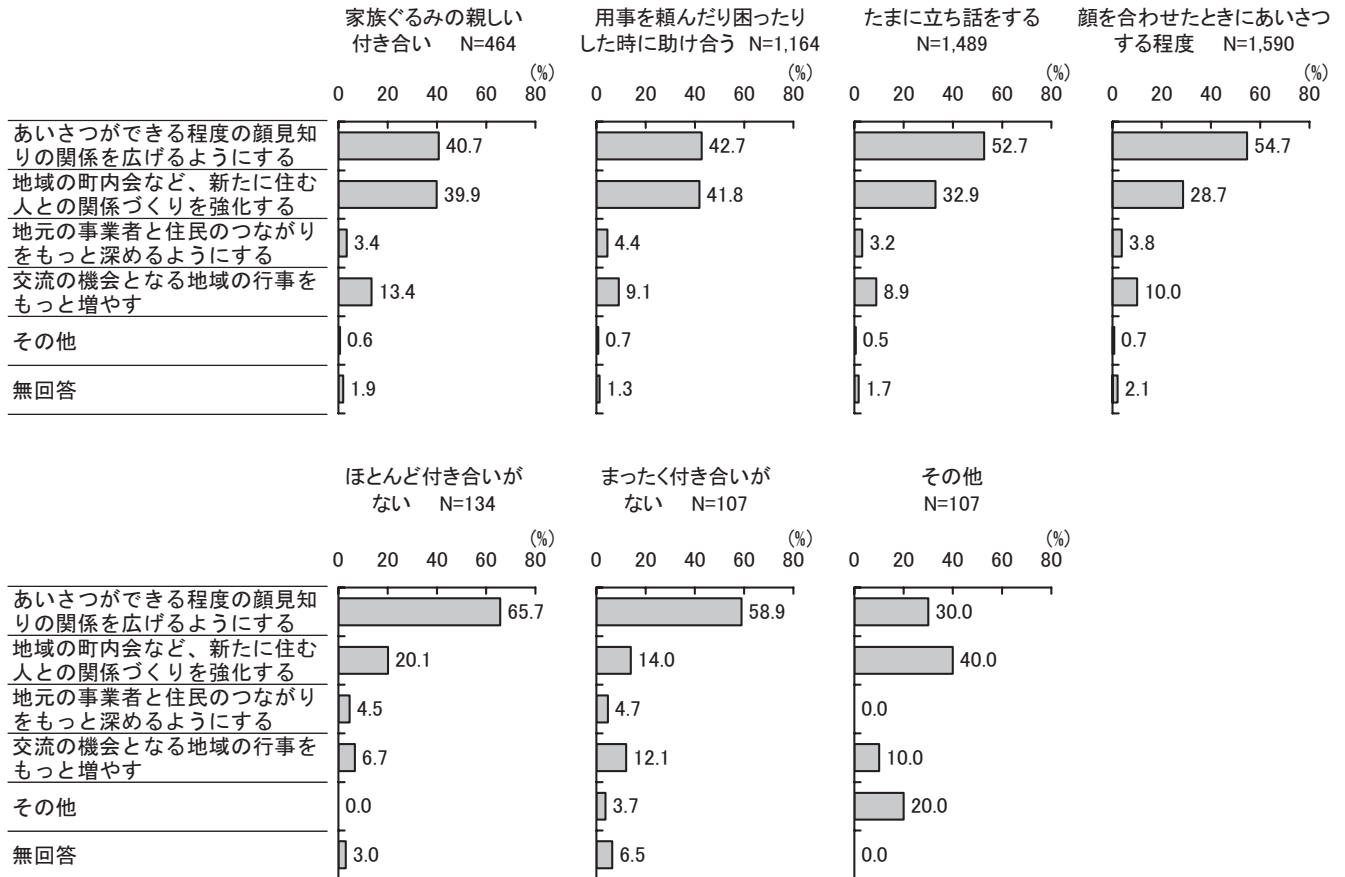
### Ⅲ 調査結果

#### 【世帯構成別】



世帯構成別にみると、一人暮らしや夫婦のみの世帯では「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げるようにする」（一人暮らし：55.9%、夫婦のみ：54.8%）が5割程度を占めており、親と子の世帯（2世代世帯）や親と子と孫の世帯（3世代世帯）では「地域の町内会など、新たに住む人との関係づくりを強化する」（親と子：34.7%、親と子と孫：38.7%）が3～4割を占めて他の世帯構成に比べてやや高くなっている。

【隣近所との付き合い方別】

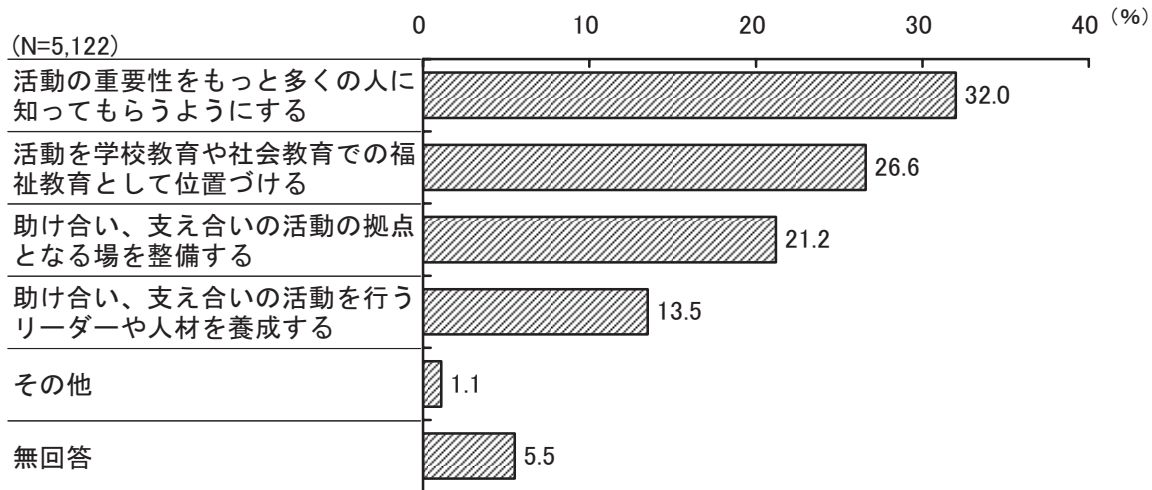


問 12 (57 ページ) の隣近所との付き合い方への回答別にみると、「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げるようにする」はいずれの付き合い方においても最も高くなっており、特にほとんど付き合いがない (65.7%) とまったく付き合いがない (58.9%) では6割前後を占めている。一方、「地域の町内会など、新たに住む人との関係づくりを強化する」は、付き合いが浅くなるほど割合が低くなる傾向で、ほとんど付き合いがない (20.1%) とまったく付き合いがない (14.0%) では1～2割にとどまっている。

②市でやること

問 13 地域における助け合い、支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。地域でできること、市でやることそれぞれについてお答えください。

(○は1つ)



Point!

40歳代までは「活動拠点整備」、50歳代以上は「重要性を知ってもらう」が最も高い。

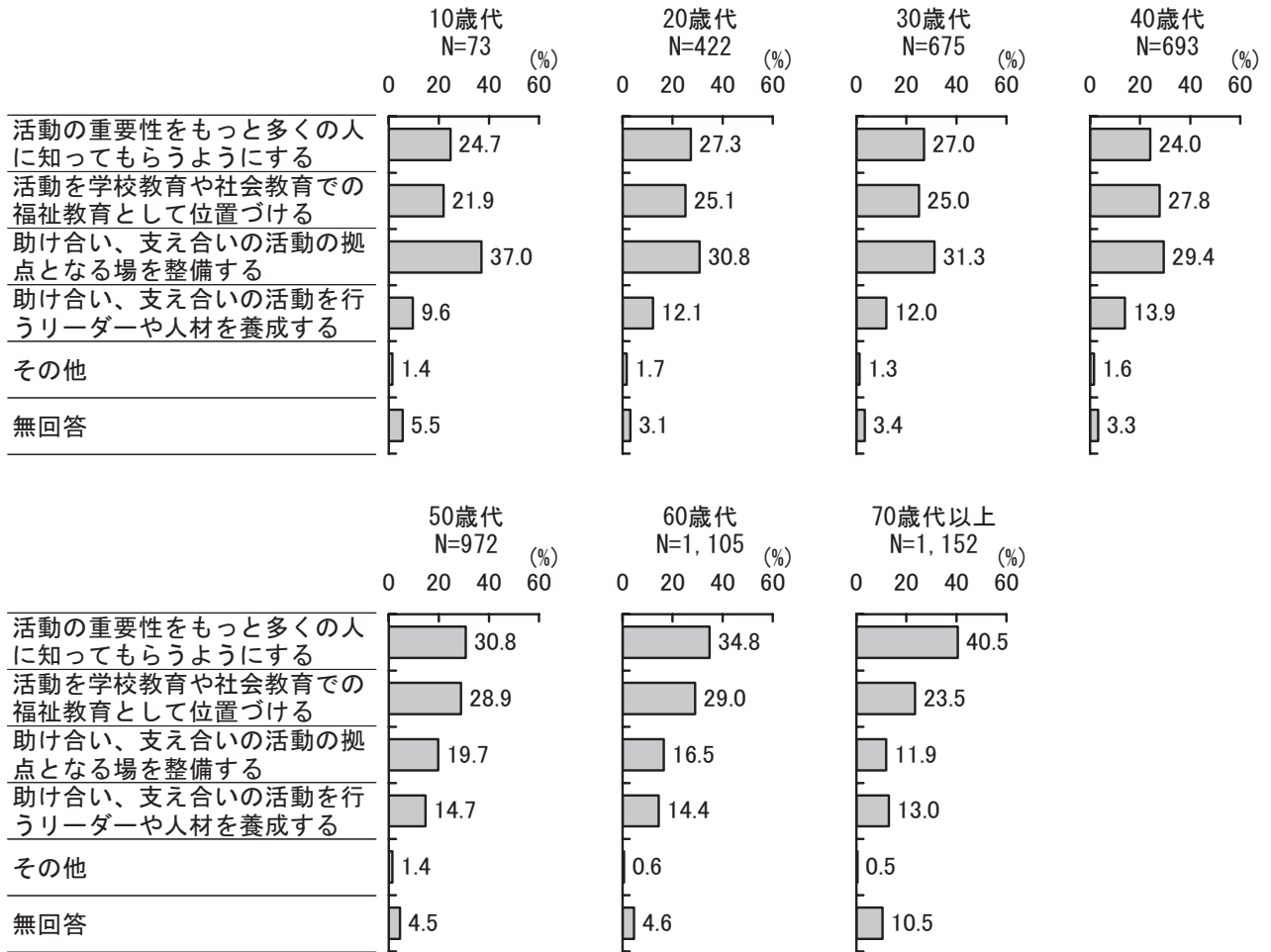
助け合い、支え合いの活動を活発にするために、市でやることは、「活動の重要性をもっと多くの人に知ってもらうようにする」が 32.0%、「活動を学校教育や社会教育での福祉教育として位置づける」が 26.6%、「助け合い、支え合いの活動の拠点となる場を整備する」が 21.2%となっている。

●その他内訳●

- 学校の施設を開放して、地域交流などに利用できるようにする。
- 現在、行政（市）が、実際に行っている活動を、広く市民に知ってもらう。何をしているのかが、わからない。
- 広報、ただし重要性というよりも、実際に助けられた人の体験談など、押し付けるのではなく、共感を得る工夫を。
- 困った時に、相談できる所を、もっと確実にして、助けを求めれば、やってくれるという風潮を確立する。
- 困っていることにはすぐ行動してほしい。「すぐやる課」があれば助かると思います。
- 時間外でも受付・相談出来る体制がほしい。
- 仕事をしているだけでなく、公務員一人一人が、リーダーだと思って日々行動すること。口だけでなく、あなた達が、リーダーだと意識すること。
- 職員自らがそうした活動に積極的に参加する。
- 助け合い、支え合いを行動で示してほしい。見習う人達も出てくるでしょう。

…など

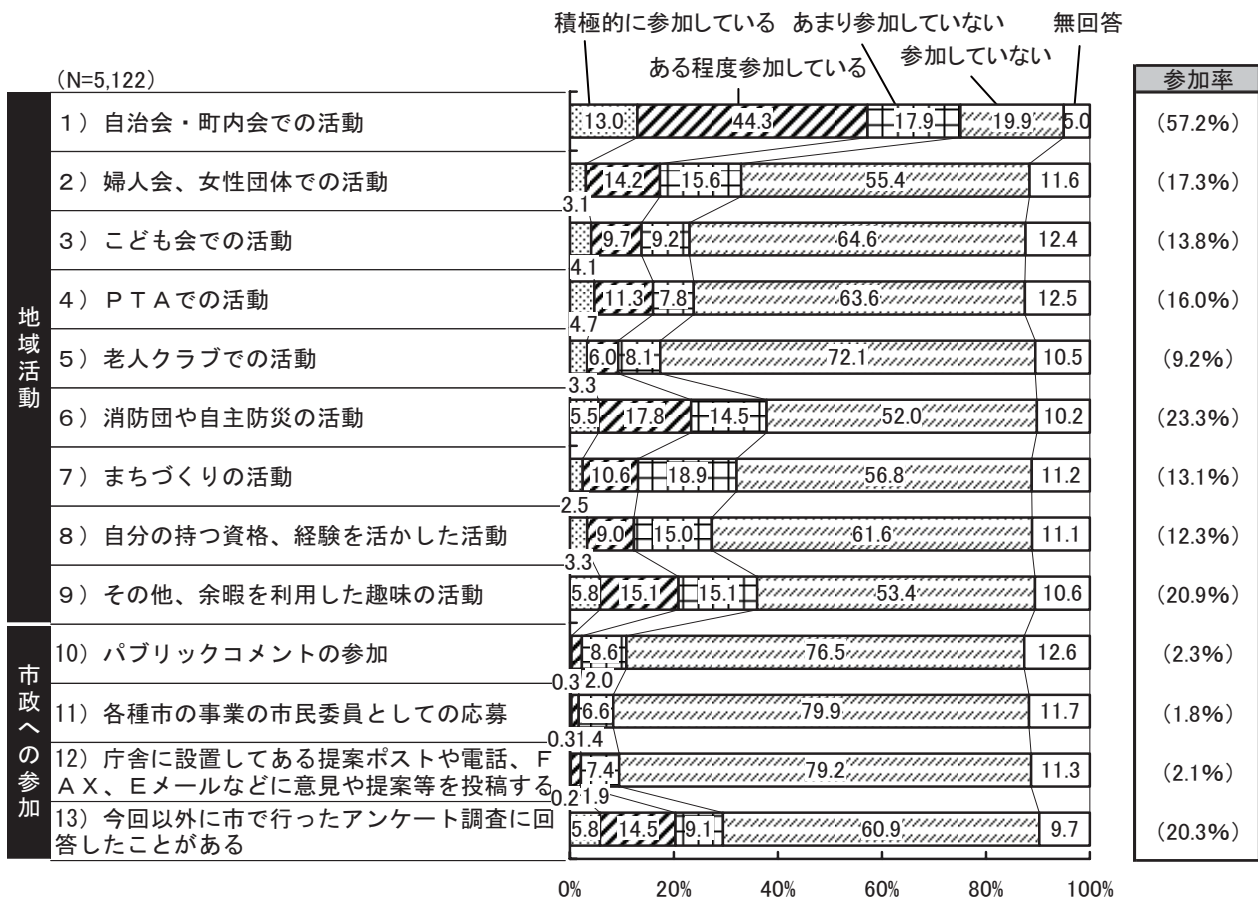
【年代別】



年代別にみると、10歳代から40歳代の比較的若い年代は、「助けあい、支え合いの活動の拠点となる場を整備する」が最も高く、3～4割を占めている。一方、50歳代以上の年代では「活動の重要性をもっと多くの人に知ってもらうようにする」が最も高く、3～4割となっている。

(3) 地域活動や市政への参加状況

問 14 市政への参加はまちづくりには大変重要だといわれています。市民一人ひとりの取り組みが、まちを変えていく大きな力にもなります。  
あなたは次の地域活動及び市政についてどの程度参加していますか。項目ごと該当するものに○印をつけてください。(項目ごとそれぞれ○は1つ)



※ “参加率” を算出する場合、回答数の合計から算出しているため、比率の合計とは一致しない場合がある。

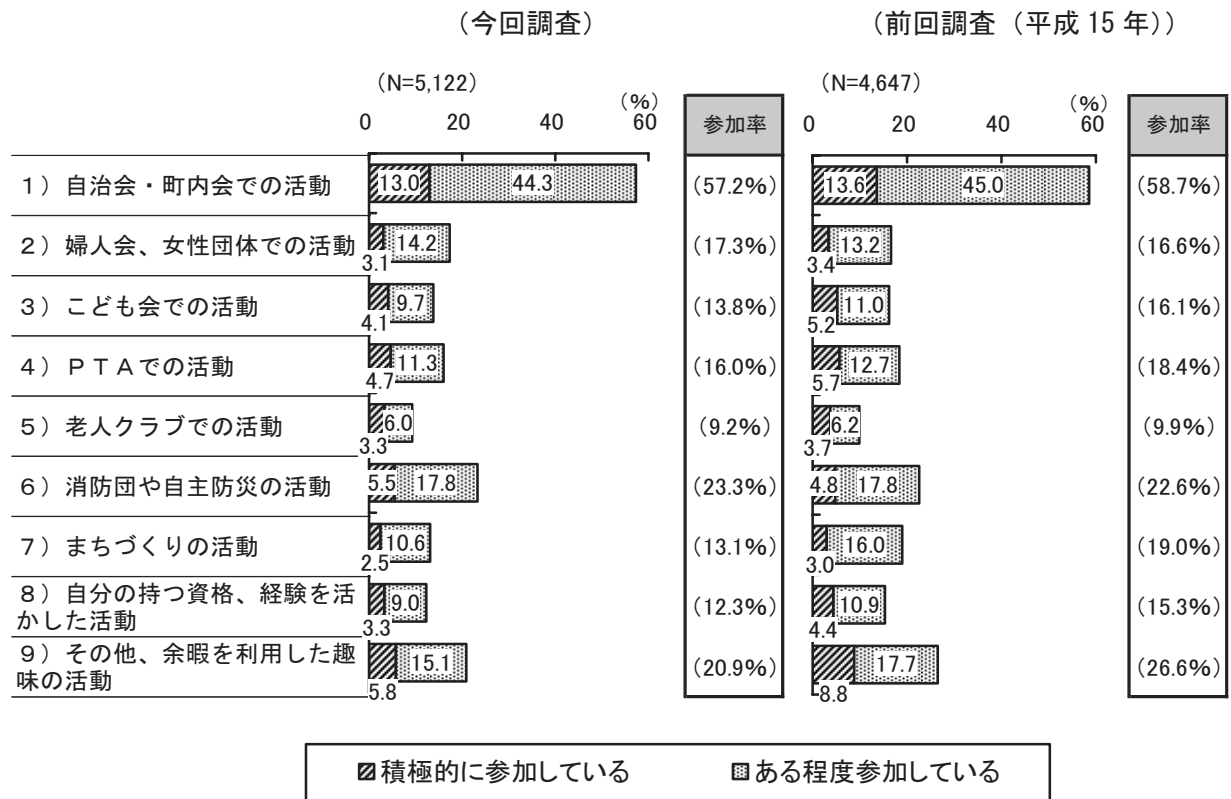
Point!

「自治会、町内会での活動」以外の活動すべてで参加率が低く、「参加していない」が過半数を占める。

地域活動や市政への参加状況についてみると、『1) 自治会・町内会での活動』は「積極的に参加している」が13.0%、「ある程度参加している」が44.3%となっており、両者を合わせた“参加率”は57.2%と過半数を占めている。一方、他の項目については過半数が「参加していない」と回答しており、特に市政への参加である「10)」～「12)」については8割弱を占めている。



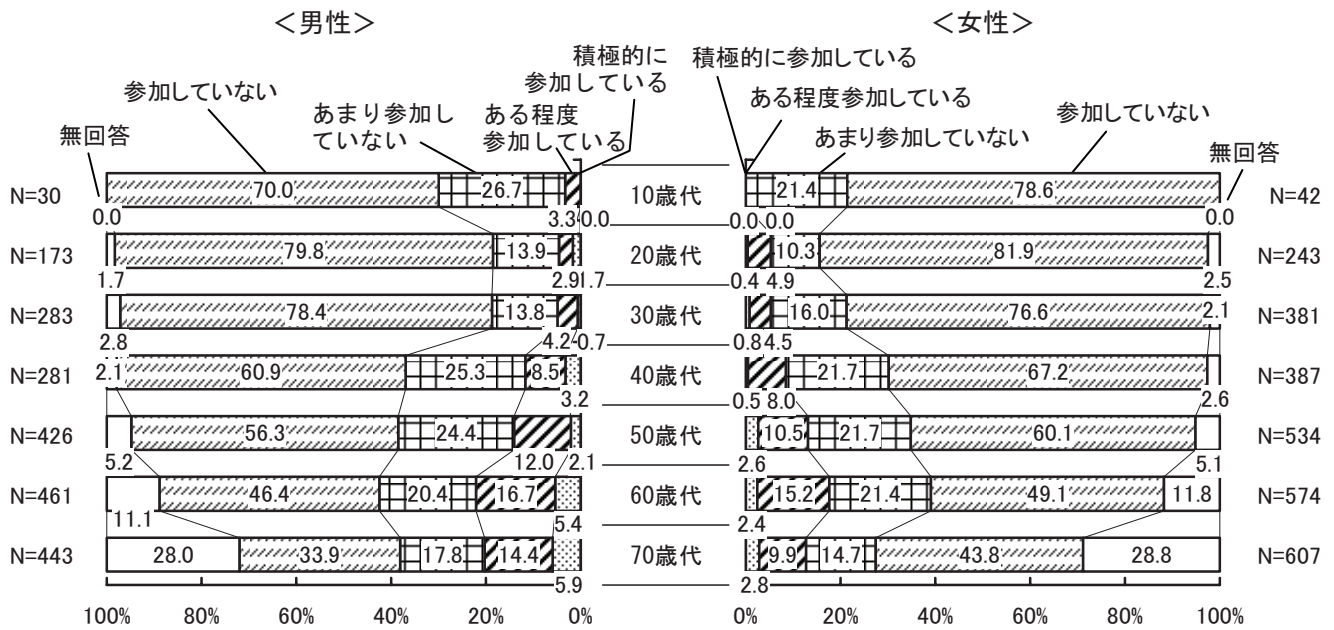
【地域活動の参加状況 経年比較】



地域活動の参加状況について、前回調査（平成15年）の参加率について比較してみると、「1）自治会・町内会での活動」は前回調査と同様6割弱（前回調査：58.7%、今回調査：57.2%）となっており、最も高くなっている。「2）婦人会、女性団体での活動」（前回調査：16.6%、今回調査：17.3%）、「6）消防団や自主防災の活動」（前回調査：22.6%、今回調査：23.3%）については前回調査より微増しているものの、その他7項目については前回調査より低くなっている。特に「7）まちづくりの活動」（前回調査：19.0%、今回調査：13.1%）、「9）その他余暇を利用した趣味の活動」（前回調査：26.6%、今回調査：20.9%）は前回調査に比べて5ポイント以上低くなっている。

7) まちづくりの活動 ※地域活動から一部抜粋

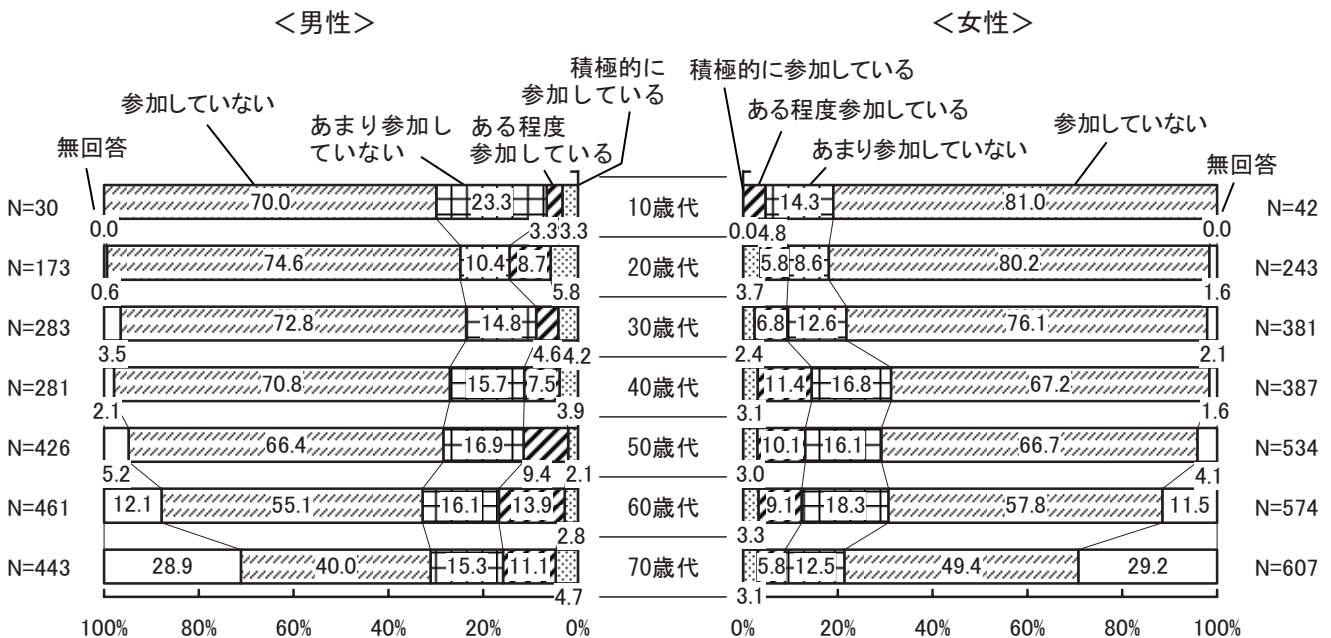
【性・年代別】



性・年代別にみると、「参加率」はおおむね年代が高くなるほど割合が高くなる傾向で、特に男性 60 歳代と男性 70 歳代では「積極的に参加している」が他の年代に比べてやや高くなっている。30 歳代までは「参加していない」が 7～8 割を占めている。また、20 歳代と 30 歳代では男性より女性の“参加率”が高く、他の年代では男性の方が“参加率”が高くなっている。

8) 自分の持つ資格、経験を活かした活動

【性・年代別】



性・年代別にみると、20 歳代の比較的若い世代から“参加率”は 1 割前後となっており、40 歳代以上は性別にかかわらず“参加率”は 1 割以上を占めている。一方、「参加していない」は 30 歳代まで 7～8 割を占めている。30 歳代、40 歳代、50 歳代では女性の“参加率”が男性より高く、他の年代では男性の“参加率”が女性より高くなっている。